

仙人通信 136 辺室山(644 m)

辺室山は大山・三峰山から宮ヶ瀬ダムに向かう尾根筋にあり、我が家の窓から仏果山・経が岳の左奥に見える山である。清川村から宮ヶ瀬ダムに通じる県道 64 号線の土山峠に車を置いて、物見峠から煤ヶ谷に向かうコースとした。我が家からは、山頂に向かい檜林の斜面であるが、見える事を期待して 400mm レンズを背負っての山登りだ。登山届をポストに入れ、枯葉で埋まった丸太階段からのスタートである。15 分程で最初のピークを迎え、山の神を祀った石の祠だ。宮ヶ瀬ダムの青い湖面が覗ける。足元の石は仕上げ砥石のような緻密な泥岩質で板状に割れている破碎岩石である。この地は、煤ヶ谷亜層群と言われ、東側の仏果山等の山並みとの間に、青野原—煤ヶ谷構造線があり、仏果山の東には、秩父層との間の愛川—藤の木構造線が走っている地層である。山の南面は檜・杉が覆い、北面は水檜等の落葉樹に榊・アセビ・シラビソが点在する。鹿避(登山者の進入?) のフェンスが、設けられており、道に迷う事はないが寂しい。祠から 50 分程でベンチの置かれた山頂である。山頂の東南側は、落葉樹となり梢越しではあるが、展望が開け清川村・厚木そして茶色く点在するゴルフ場までは確認できる。相模川から先は、水蒸気の靄で辛うじて、県立相模原公園の展望台のみで、他は見えない。座間は真東なのであるが……残念。北側は御殿の森から本間の頭までが青空に映える。休憩後最初の鞍部を越えた時、直径 20cm 程の表面から剥けたようなオニオンストラクチャーの岩を発見した。隣にある鐘ヶ岳で見て以来で嬉しくなった。南面が落葉樹になったお蔭で、榊やアセビも白い花が咲き始めている。よく見るとナニワズヤヒイラギも散見される。右手下には土山峠から沢沿いに道路が、左手下には上煤ヶ谷から始まった林道も確認できた。静かな中、コゲラが囀りながらドラムを叩く。小さなピークを 3 個過ぎると、赤い寒ツバキが尾根伝いに見事に咲き誇る。山頂から 35 分程で物見峠だ。コースは沢の頭を捲くようになり、足元の小石が急な沢に音たてて落ちてゆく。岩が泥岩質で脆く、雪や霜柱が解けて不安定になった小さな石が次々と沢に落ちてゆくのだ。壊れかけて狭いコースでもあり、頭の上の岩にも神経を使いながら約 800m の区間を無事通過できた。こんな中、300 万年以前の色々な貝の化石が割れた岩面に見事である。ご存じのように海底火山であった丹沢が隆起しながら日本列島にぶつかり、現在の山容が出来た事が窺える物を見つけ嬉しくなる。コースは檜・杉の林の中に入り、3 つの鹿避けゲートを潜ぐり、谷太郎川沿いの正住禅寺そして 3 時間 45 分で県道沿いの煤ヶ谷バス停に辿りつく 16500 歩の山旅でした。(h 28. 3. 2)

山頂



コースの破壊箇所



ウリガイの化石

